

■市民アンケート結果

市民アンケート調査概要

アンケート名：中心市街地に関するアンケート調査

調査目的：中心市街地の利用状況、中心市街地活性化に資するスマイルビルのあるべき姿、市民が求める中心市街地像を把握し、本ビジョン策定の基礎資料とする

調査対象：無作為抽出による市民3,000人

調査期間：平成23年7月1日～15日

回収件数：1,082件

回収率：36.1%

(1) 回答者の属性

- ・回答者の64%が女性であり、年代では50代以上からの回答が多くを占めている。
- ・滝川市の居住年数は、20年以上が全体の65%を占めている。

	男性	女性	合計	備考
性別	380	702	1,082	実数
	35.1	64.9	100.0	構成比(%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	合計	備考
年齢	58	130	160	154	207	371	1,080	実数
	5.4	12.0	14.8	14.3	19.2	34.3	100.0	構成比(%)

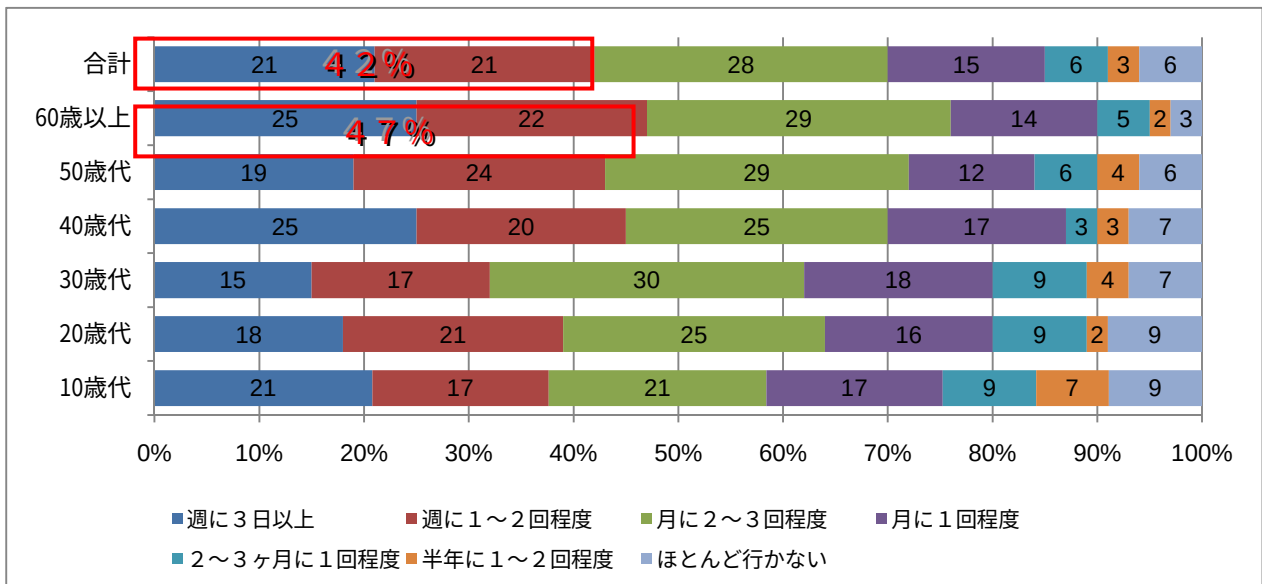
53.5%

	5年未満	5～10年	10～15年	15～20年	20年以上	合計	備考
居住年数	130	72	70	108	687	1,067	実数
	12.1	6.7	6.5	10.1	64.6	100.0	構成比(%)

2-2 市民アンケート結果

(1) 来街頻度

- ・ 中心市街地への来街頻度については、週に1回以上来街する市民は、全体の42%を占めている。
- ・ その中で週に1回以上の来街頻度が高い世代は、60代が最も多く47%である。



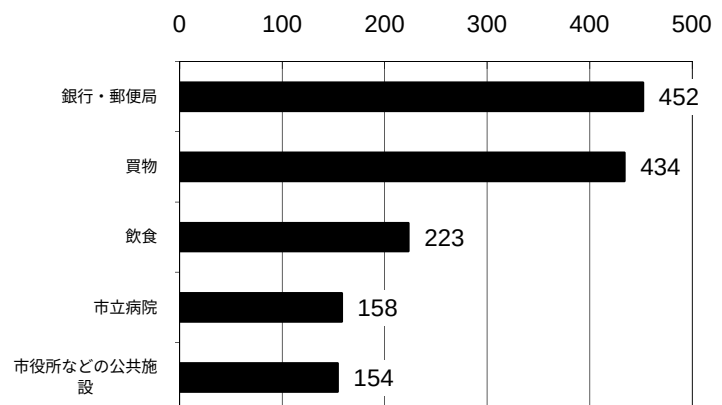
(2) 来街目的

- ・ 月に1度以上、中心市街地に来街する方を対象に17項目から3つ選択してもらった結果、来街目的の上位5件は、銀行、郵便局への用事、買物、飲食、市立病院及び市役所などの公共施設となっている。
- ・ 年代別では、10代では上位5件の中に娯楽が入り、20代ではJRやバスの交通機関利用が入っている。
- ・ 60代では、他の世代では、買物が最上位を占めることは無かったが（10代は1位と2位が僅差のため除外）、買物が最も多く、高林デパートとの回答も上位に入ってきている。

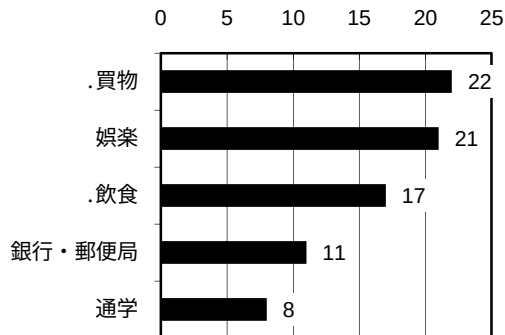
◆選択肢一覧

- 買物
- 飲食
- 通勤
- 通学
- 仕事（職場は中心市街地外）
- 習い事
- 理美容など
- 市立病院
- 市立病院以外の病院
- 市役所などの公共施設
- 銀行○郵便局
- JRやバス
- 商店街
- スマイルビル
- 高林デパート
- 娯楽（ゲーム・カラオケ・パチンコなど）
- 散策○散歩

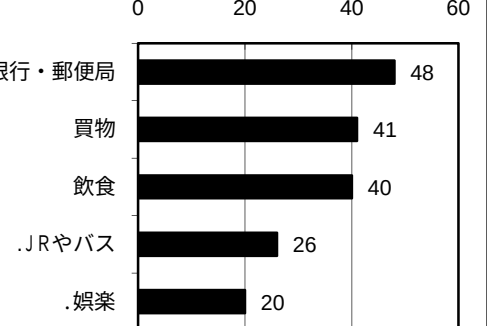
(全年代：中心市街地に出かける目的の上位5品)



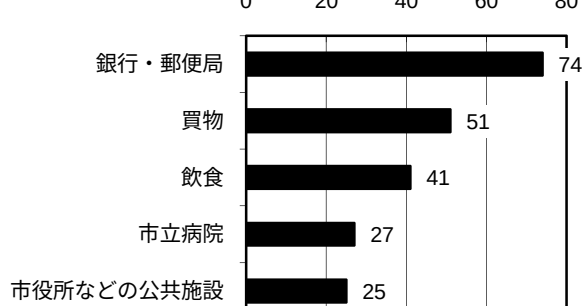
(10歳代が出かける目的の上位5件)



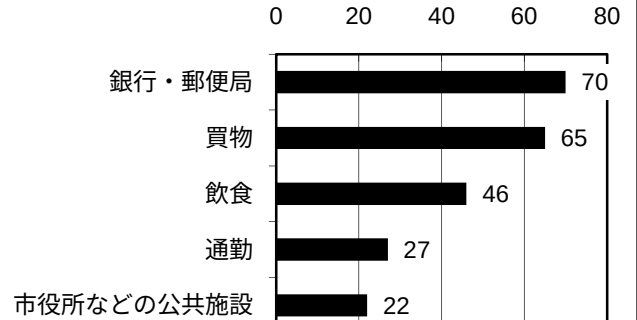
(20歳代が出かける目的の上位5件)



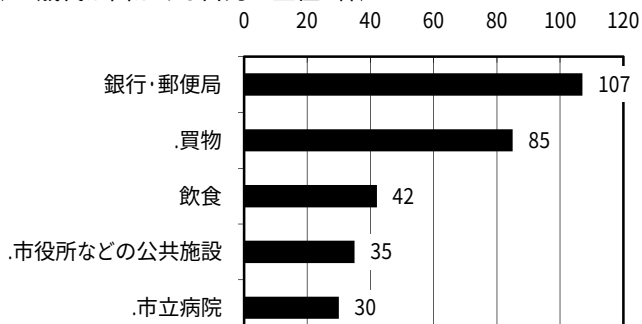
(30歳代が出かける目的の上位5件)



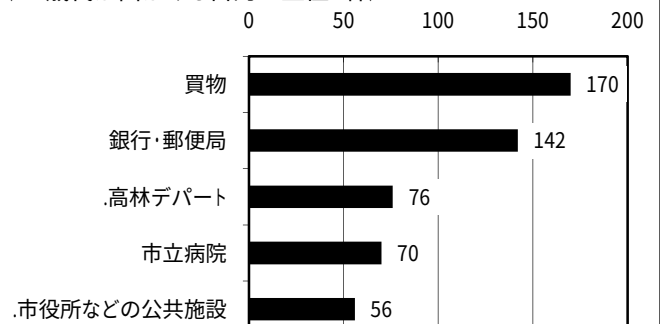
(40歳代が出かける目的の上位5件)



(50歳代が出かける目的の上位5件)



(60歳代が出かける目的の上位5件)



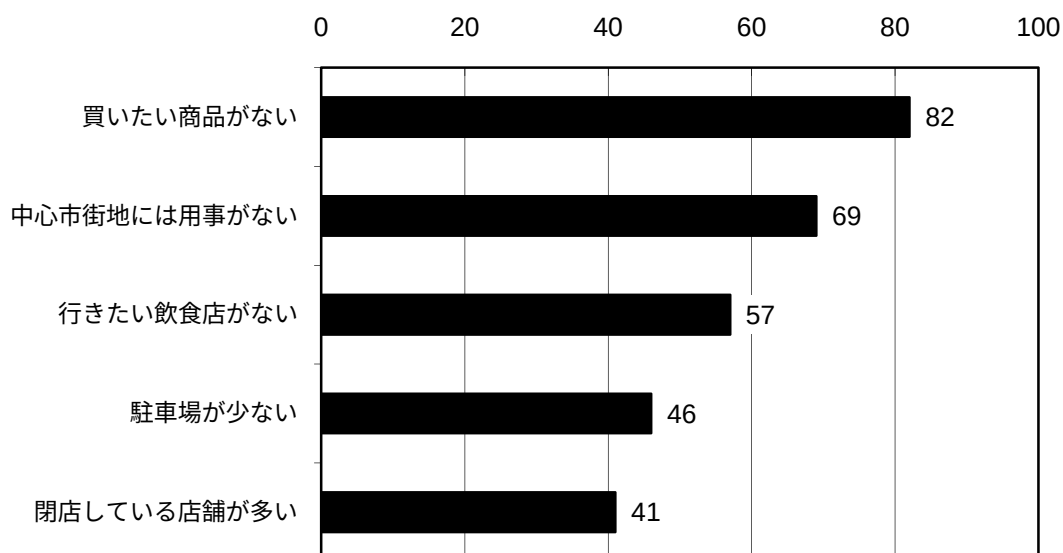
(3) 来街頻度が低い理由

- ・ 2～3ヶ月に1回程度など、中心市街地への来街頻度が低い方にその理由について19項目から3つ選択してもらった結果、「買いたい商品がない」「中心市街地に用事が無い」「行きたい飲食店がない」「駐車場が少ない」「閉店している店舗が多い」が上位5件を占めている。
- ・ これらのことから、中心市街地の現状として、商品の不足による商業環境としての魅力が低く、空き店舗が多いことにより賑わいや活力の低さが指摘されていると思われる。

◆選択肢一覧

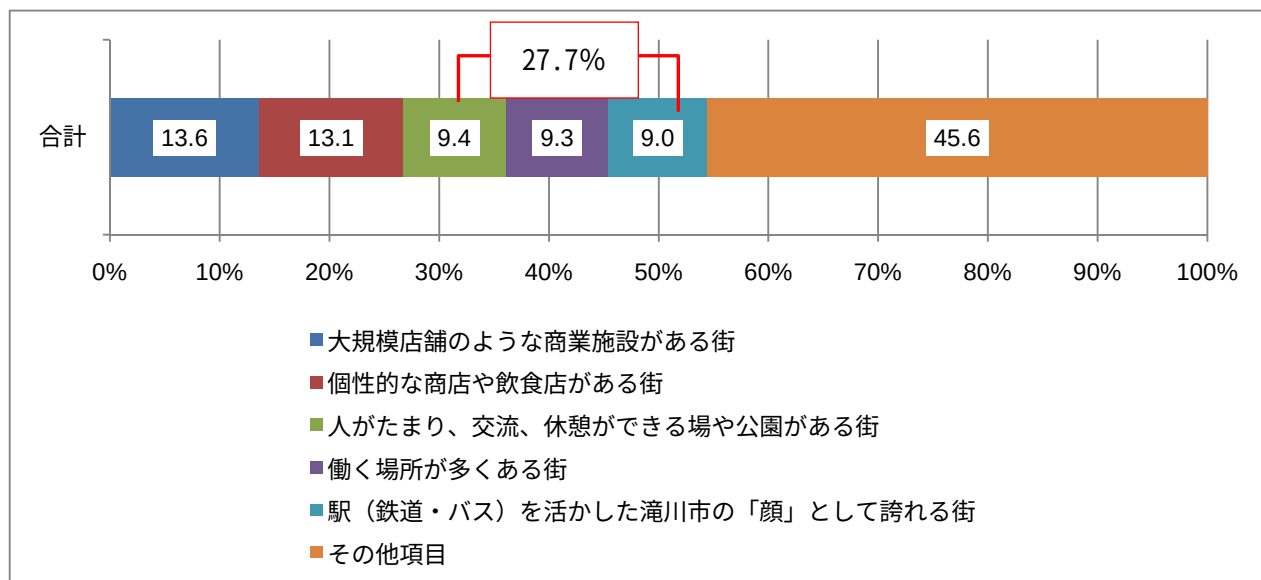
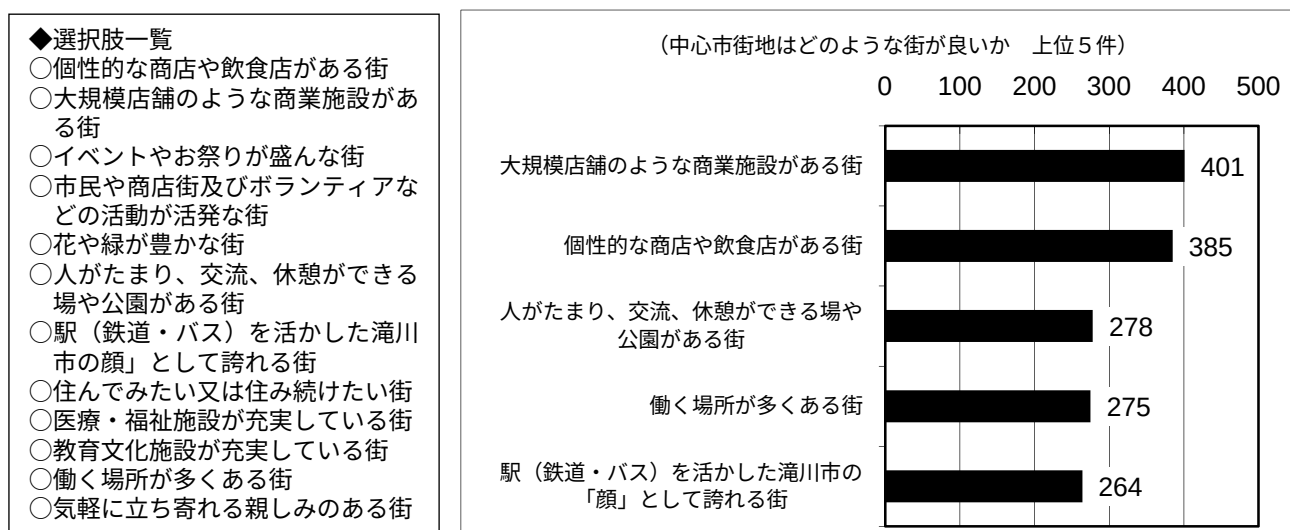
- ☐ 買いたい商品がない
- ☐ 行きたい飲食店がない
- ☐ 活気がない
- ☐ 閉店している店舗が多い
- ☐ 駐車場が少ない
- ☐ 市民の交流する場がない
- ☐ 気軽に休憩できる場がない
- ☐ 公共交通（JR・バス・タクシーなど）が不便
- ☐ 居住地から遠い
- ☐ 居住地の近所で用事が済む
- ☐ 文化・芸術施設が少ない
- ☐ 公園が少ない
- ☐ 歩きにくい
- ☐ バリアフリーが進んでいない
- ☐ 休憩するところがない
- ☐ どこに何の店等があるかわからない
- ☐ 治安が悪い
- ☐ 中心市街地には用事が無い

(全年代 中心市街地へ行く頻度の少ない理由の上位5件)



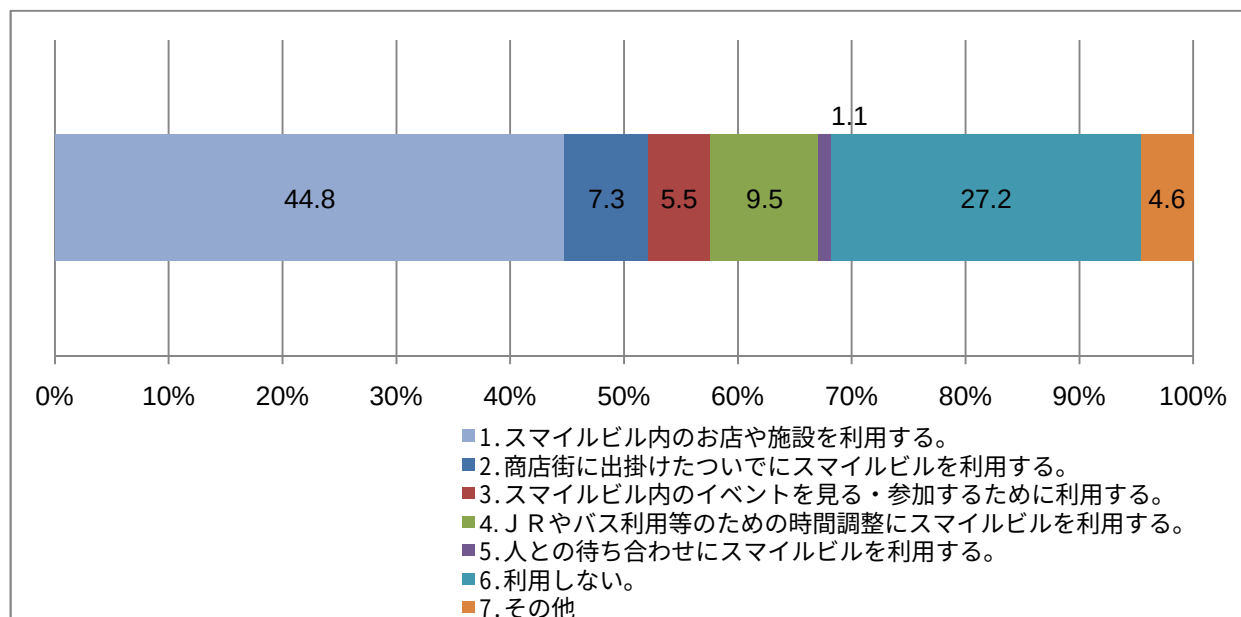
(4) 中心市街地のあるべき姿

- ・中心市街地のあるべき姿については、13 項目から3つ選択してもらった結果、「大規模店舗のような商業施設がある街」「個性的な商店や飲食店がある街」が全体の26.6%を占め、中心市街地を商業集積地区として期待している意見が多い。
- ・一方、上位5件の内、3～5位には、「人がたまり、交流、休憩ができる場や公園がある街」「働く場所が多くある街」「駅（鉄道・バス）を活かした滝川市の「顔」として誇れる街」など（3件で全体の27.7%）、商業的視点では無く、交流や人が多く集積する地区、広域交通を活かした拠点といった滝川市を代表するような市街地形成も望んでいる。



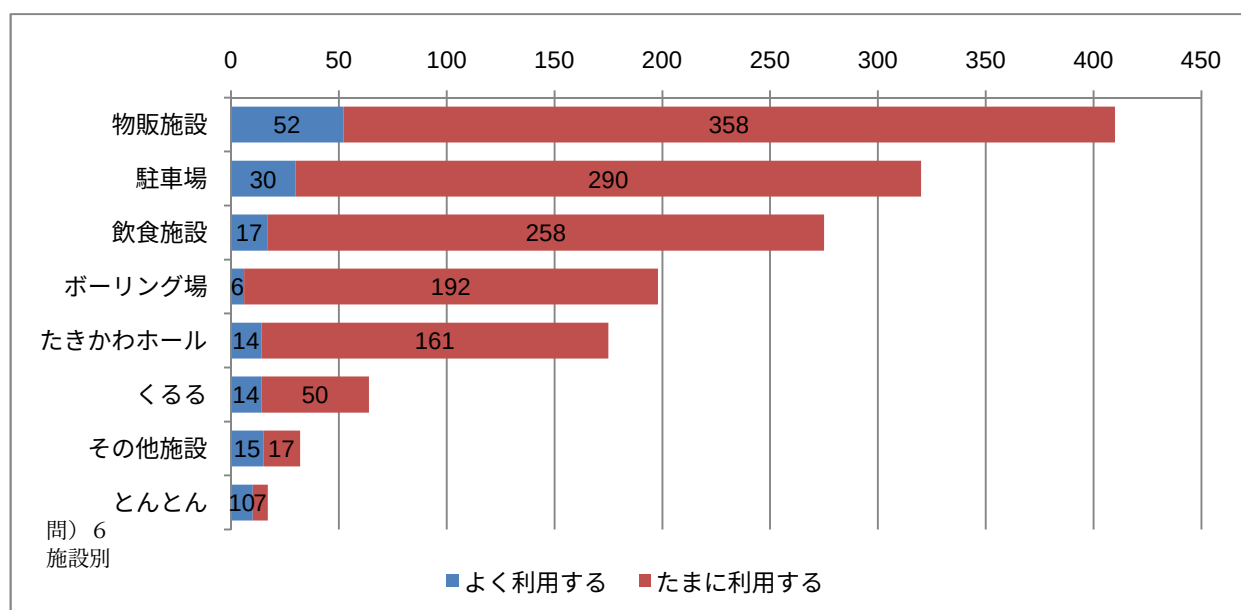
(5) スマイルビルの利用目的

- ・回答者全員を対象にスマイルビルの利用目的を1つのみ選択して頂いた結果、スマイルビル内のテナント目的が最も多く全体の44.8%を占めている。
- ・一方では、利用しないという方も全体の約27.2%を占めていることから、スマイルビルの今後のあり方について検討することが望まれる。



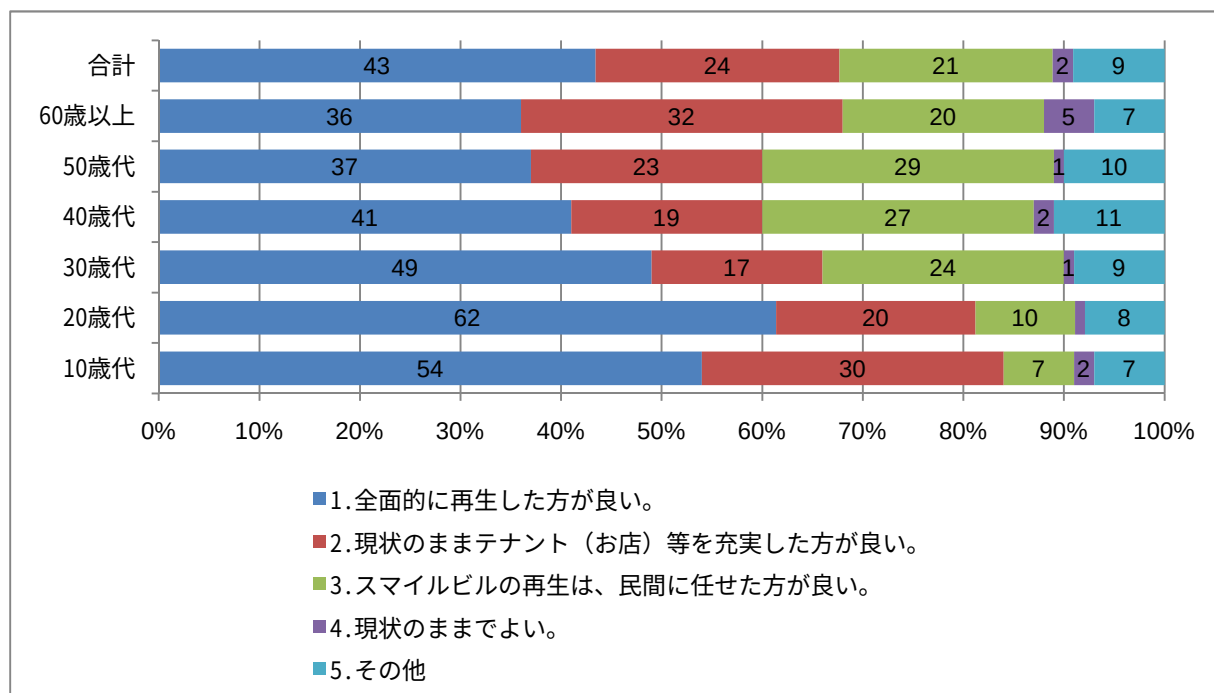
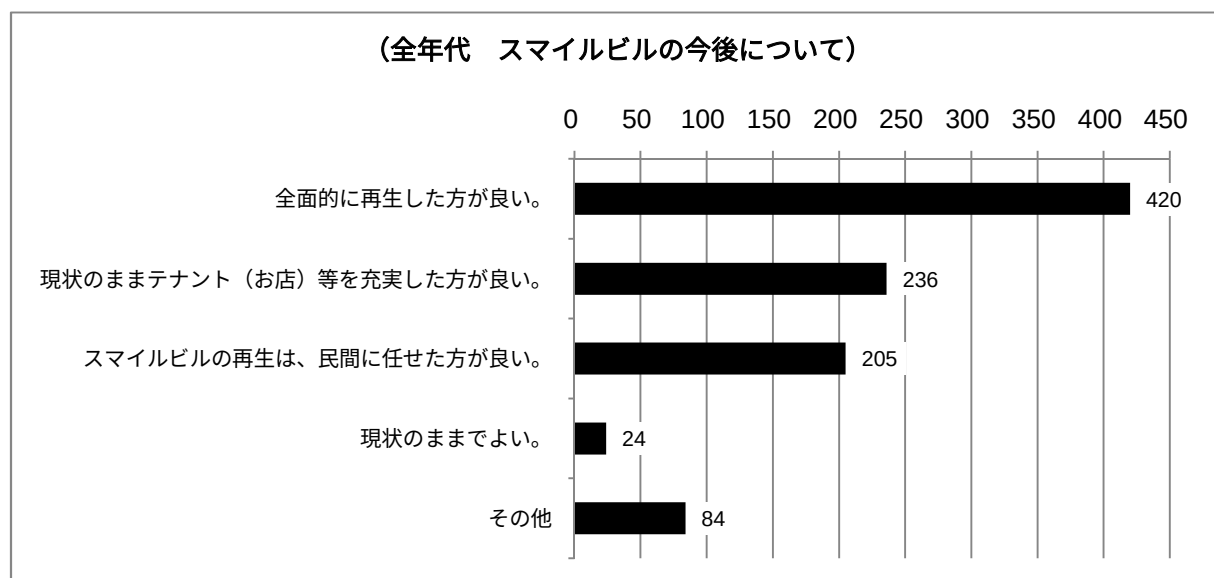
(6) スマイルビル内の施設利用

- ・スマイルビル内の各施設の利用状況は、スマイルビル内で最も利用されている施設は、物販施設が最も多く、次点は駐車場となっている。



(7) スマイルビルの今後について

- ・スマイルビルの今後については、「全面的に再生した方が良い」が最も多く、全体の 43% を占めている。
- ・この「全面的に再生した方が良い」の年代別の傾向としては、年代が若くなるほど、その傾向が強い。



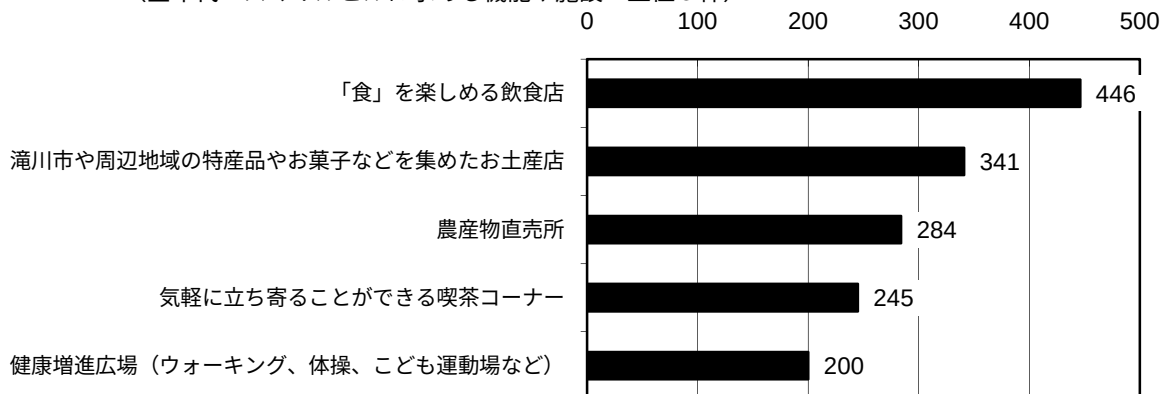
(8) スマイルビルの利用を促すような機能

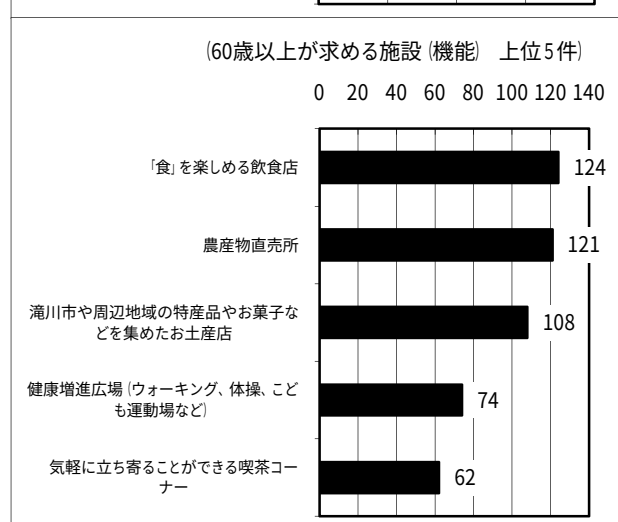
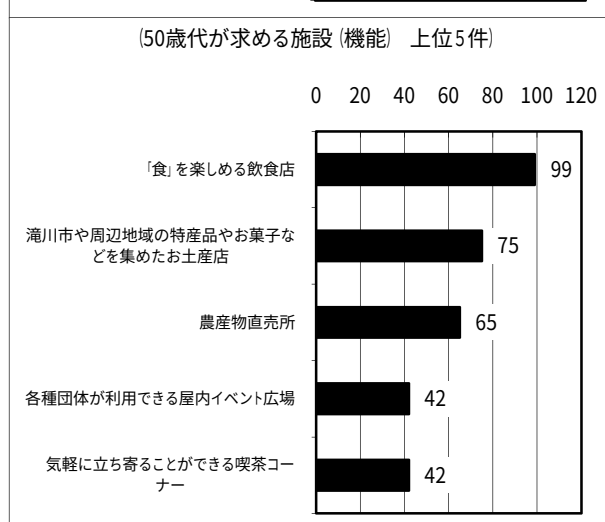
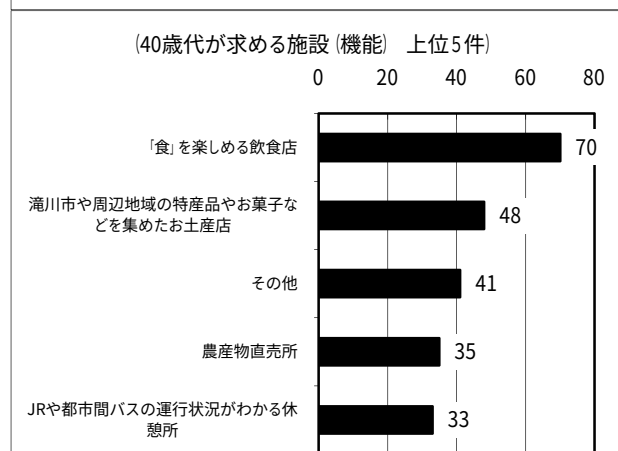
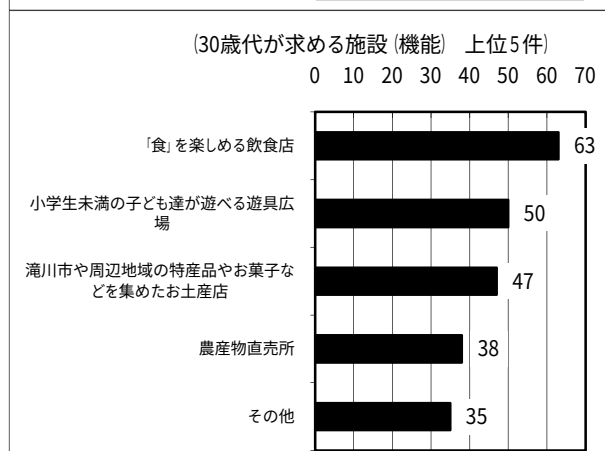
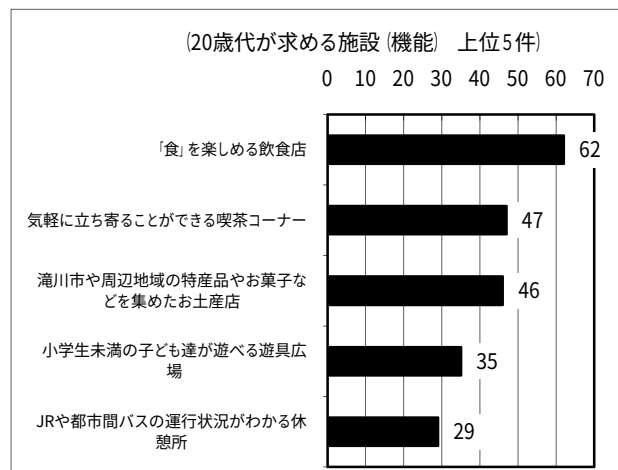
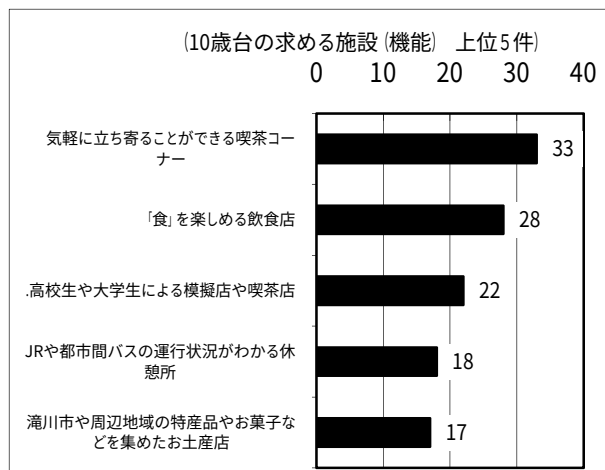
- ・スマイルビルを今まで以上に利用するために必要と思われる施設（機能）を回答者全員に3つまで選択して頂いた結果（選択肢 17）、全体では「食」を楽しめる飲食店」「滝川市や周辺地域の特産品やお菓子などを集めた土産店」「農産物直売所」「気軽に立ち寄ることができる喫茶コーナー」「健康増進広場（ウォーキング、体操、こども運動場など）」が上位を占め全体の 59%にあたる。
- ・通勤や通学、出張等で広域交通機関を利用する方々が多い世代 10 代、20 代、40 代では「JR や都市間バスの運行状況がわかる休憩所」が上位に上がっている。
- ・子育て期にある 30 代からは、「小学生未満の子供達が遊べる遊具広場」が2 番目に多い。
- ・40 代では、その他が上位にあり、その内容としては、ワンストップ型の大型店舗を望んでいる意見が多い。この背景としては、市内にも大型店が数多く立地しているが、そのほとんどには、憩いの空間がなく、いわゆるショッピングモール的な構造になっていないためと考えられる。
- ・以上のことから、スマイルビルの利用を促す機能としては、「食」を中心に、交流や憩い、地域発信が求められていると考えられる。

◆選択肢一覧

- 農産物直売所
- JR や都市間バスの運行状況がわかる休憩所
- 各種団体が利用できる屋内イベント広場
- 小学生未満の子ども達が遊べる遊具広場
- 健康増進広場（ウォーキング、体操、こども運動場など）
- 小さな子ども達を預けることができる施設
- 各種団体や市民サークル等が活動や会合ができる会議室
- 「食」を楽しめる飲食店
- 気軽に立ち寄ることができる喫茶コーナー
- 滝川市や周辺地域の観光案内所（無料パンフレットコーナーなど）
- 滝川市や周辺地域の特産品やお菓子などを集めた土産店
- 各種団体や市民サークル、学生等の文化活動の成果を展示できる空間

（全年代 スマイルビルに求める機能や施設 上位 5 件）





○総括

- ・市民は、中心市街地に商業機能も多いが、働く場や交流機能などの商業以外の機能も求めている。
- ・スマイルビルに関しては、商業機能（物販）よりも飲食や交流など郊外店とは違った賑わいを求めている。
- ・更にスマイルビルの今後については、「再生」を望む意見も多いことから、商業機能にとらわれない再生が必要であると考えられる。